
KILL YOU !!! ?

なかじー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

K I L L Y O U ! ! ! ?

【Nコード】

N 9 0 4 1 S

【作者名】

なかじー

【あらすじ】

初投稿らしいよ！

一応殺人コメディです！

ざっくり言うと

殺し屋がミッションでバンバン倒して

それに笑い要素を・・・

いや、それだけの浅い話ではないです！

・・・多分。

第1話 腰痛エ・・・(前書き)

主人公の性格はウザめです。ちょいウザです。

第1話 腰痛エ・・・

殺し屋。それは、法外な報酬で人を殺す職業。

俺の名は山田 山之助。

あだ名はダーヤマ。殺し屋養成学校のタマゴさ。

タマゴつつたつて俺は金のタマゴだ。

俺の周りの奴は全員ザコい。

ショットガン2発で敵を10人ぶっ倒した俺とは違い

あいつらはグレネードランチャーを10発もぶちこんだが全部外れて腕を骨折しやがった。

そんな奴らより俺は何倍も強い。

そんな俺は今日、ある手紙をもらった。

「殺し屋大会はぢめるよ。」

なんだよ、新聞の文字を切り貼りして手紙作るっつう例の方法使
つてきやがった。

当然俺はいたずらかと思い、その手紙を捨てたんだ。

そしたらどうだ。自分の体がどんどん透明になっていったんだ！

俺は近くにあったハンドガンと弾を持ち、意識を失った……。

気が付くと何も無い荒地に横たわっていた。

起き上がり、ハンドガンを構えた。

誰もいないようだ。

ここはどこなんだ。

のどが渴いた。

マックシエイクが飲みたい！

はあ。もつやだよ。夜のガキ使始まる前に帰れるかな？

いや、無理だ。

俺は悟った。
マンガで異世界行ったら3日かかったとかそんな感じなのがあった。
絶対ガキ使見れねえよ。録画しときゃあよかった。
そんな俺を責めた。

そんなこんなで一時間あたり経っただろうか。
あたりがだんだんと暗くなってきた。
太陽なんかあっただろうか。
いや、寒い。なんか羽織りたい。

ん？

なんだ、今物音しなかったか？
そつと俺は振り向いた。

「うおっ！！」
目の前に寝ている人間がいる！
すると、次々と人間がドサドサとどこからかおちてきた！
20人程度いるだろうか。
俺は仕方ないので全員を起こすことにした。

見たことのある顔がいた気がするが、
一応全員起こした。

「うーん、ここはどこなんだあ？」

「つまんねえとこだなあ！」

「とにかく帰りません？」

「どっやって帰るんだよ！」

ざわざわと全員がしゃべりだした。

かっこつけやがって！

さっきまで思いっきりイビキかいてたのによお！

すると、だれかが前に出て大きな声で言った。

「と、とりあえず自己紹介しません！？」

「まあ、ほかにやることないしな。」

「じゃ、キミから時計回りで。」

「え？」

オイオイオイオイ！俺からとかマジやめてくれよ、

まじダルイしプレッシャーかかるし！

心の中でグチをいうのもヤナ奴なので、

一応自己紹介することにしよう。

「山田 山之助。17歳。殺し屋養成が・・・」

しまった、口滑らしちまった！一般人に知れたら大変なことになってしまうー！

「え？キミは殺し屋養成学校の生徒なのかい？」

「え、あ、はい・・・。」

「ボクも、殺し屋だよ！」

「俺もな」

「え……？」

なんだあ？まさかここにいる全員、殺し屋なのか！？

その時、空中に巨大なモニターみたいなものがでてきた。

そして、その映像の黒い覆面をかぶった男が

ボイチェンでニュースの元地上げ屋っぽい声を出してこう言った。

「さあ、げえむをはぢめルヨ」

続く

第1話 腰痛エ・・・(後書き)

最後まで読んでくれてありがとうございます！

続きでてたら読んでみて下さい！

絶対に！

気が向いたら！

え？

高飛車な奴嫌い？やめてよお！いや――――！！！！

第2話 栃木って東北だよな？（前書き）

さんざん栃木けなしてますが

栃木県民です。県民だからこそ言えるのです！（え

第2話 栃木って東北だよな？

な・・・なんだあ？コイツは？

「お前はだ、だれなんだあ？」

隣の大男が言った。

「え？ウチい？」

ああ、この声テレビでいつぱい聞くわあ・・・
いや、そんなことは関係ない！

いったいここはどこなんだ？
誰かそのこと聞いてくれよ！

「ウチはねえ・・・言えないなあ。ゲームの序盤でラスボスが正体
ばらすようなもんでしょ？」

「はあ!？」

やべえ、こいつムカつくわあ・・・厨房みてえだな・・・

「じゃあさ、お前はいわゆるラスボス的存在なわけねえ？」

なんだコイツ。けっこう若いな。
そんなマジで聞くなよ馬鹿だなあ・・・

「まっ、そういう系？」

あああああああつ！

やべえ、足カタカタやっちゃったよ、とんでもなくム力つくからよお！

「いや待て。そんなゲームみたいな事と同じにすんじゃない！早くここから帰せ！」

おお、コイツはまだ大丈夫だ。現実を知っている！！！
と、考えてたらまたアイツが妙なことを口走ったんだ。

「ここからは帰れないの。ミッションをクリアしなきゃねえ。」

え・・・？ミッションだあ？帰れない？なんだよ！
なんだよなんだよなんだよ、まさか殺し屋系の？

「そうか、今から説明を始めるよ。」

はあ。忘れてたんかよコイツはよお・・・
といいながら俺は耳を傾けた。

モニターの男はニュースのボードみたいなのを取り出し、
説明し始めたんだ。

「いまからお前らは栃木県の益子に行くんだあ。」

栃木・・・？どこだそこ。

周りもそんな雰囲気だ。

東北の方だっけ。いやいや、とにかくなんなんだ？

「そこで殺してほしい奴がいるって依頼を受けたんだねえ。」

「はあ？それだけのためにここに呼んだのか？」

「そつだ！それくらい1億円くらいで俺が・・・」

うん。たしかに。でもこれが本格的に仕事ができるってことかも！

「敵は全部で894人。2m。」

「に、に、2メートルう！！！！？」

ひよ、ひよえええええ・・・

やばいぞ、ホントにヤバイ！！！！

「名前は益子焼マン。体が陶磁器の材質のやつなの。」

「・・・おい、ふざけんじゃないぜえ？そんなわけ・・・」

「とにかく今から行ってもらえばわかるよお？うん？」

・・・やっぱうぜえ・・・いやしかし、これは本当のことかも知れない・・・

すると、また俺の体が透明になってきた！

どうやらホントらしい、俺はハンドガンを持った。

早く終わらせてモンハンやろうぜ！おう！

うわああああ・・・

周りがそんな声を出した・・・

びっくりしたのだろう・・・意識が・・・

う・・・

．．．．． 早朝のようだぜ。

ラジオ体操をしている年寄りがいるからな。

それにしても益子焼ってなんだ？有田焼なら社会で習ったけどよお・

・

栃木県の県庁所在地って栃木市だよな。

でも前日光東照宮行くとき栃木市通ったがクソ田舎だったぜ．．．

まったく．．．

ん？なんだ．．．アイツ？

見ると「かまもと」という所からぞろぞろ茶色や赤などの大男が出てきたんだ。

．．．。そうか、コイツだなあ？本当にいるんだな、こいつの。見るからに悪そうな奴だぜ．．．よおし、やってやるうぜえ？

「益子駅は．．．ど．．．こ．．．だべ．．．か．．．？」

「は？」

な、なんだあ、道を尋ねてきやがった．．．

俺は知らねえぜ．．．しかも東北っぽい喋り方だな．．．

どすの利いた声だぜ．．．まずは普通の人っぽく．．．

「すみません、僕もよく知らないんです！」

「．．．。」

「？」

「益子に来る資格はない。」

「益子に来る資格はない。」

「益子に来る資格はない……。」

な……なんだかやべえぞ……
と、その時どこからか声が聞こえたんだ。

「ひゃああああああああっ！」

こいつらがやらかしたんだな……とにかく今は逃げろ！
どれくらい強いのか見てみようぜえ！

ダツ！！！！

「待て。」「待て。」「待て。」

「バカヤロー！きめえんだよ変態！益子オタクか？略して「ましオ
タ」か？

マシ・オカみたいでうぜえんだよお！」

いいギャグをかましたぜ……

「ばばばばばばばばばばばば。」

なあっ！？

とその瞬間あいつらが地面をパンチで割ったんだ、
周りもこつちを見てきたぜ、「ましオタ」のくせに益子の景観くず
しやがった！

もう、いいぜえ。一瞬でケリをつけてやるう！

俺はハンドガンを構え、ヘッドショット！

カッシャーーン！！

頭が割れたぜ！てか一体あいつらの体はどうなってるんだ？

俺は撃ちまくったぜ！だけどよお、30発も撃つたらもう弾切れ！

残り50体くらいいる！俺は焦った・・・！

すると、何でだか地面に武器がいろいろと落ちてるんだ！

そして真っ先に目に飛び込んできたのはロケラン・・・

いや、しかし！俺もそんな馬鹿じゃねえ！ミッシヨン以外でモノを壊す

殺し屋はダメダメさ！

おれはショットガンを手に取り、

0・5秒で構え・・・

0・1秒で撃つた・・・！

カッシャシャーシャーーン！！！！

「益子サイコーーーーー！！！！」

益子焼マンとかなんちゃらっつう奴はそんな事を言っ

一気に20匹倒れた！

確かに益子は田舎でまったりしていい良さそうだがあいつらは

全然好きという感情が伝わってこないぜ・・・

まあ冷たい陶磁器だから当然だな！

おっと、今俺いい感じだったよな！

ハッ！！！！やばい、まだ残ってたんだ！！！！

俺はショットガンを撃つたが弾切れ。

1発しか入ってないなんて俺ドンだけツイてないの・・・！！

「ろくろと手でやるの、どっちがいい~~~~~?」

もうダメだ。。。逃げることもできない・・・

これはもう大怪我で済ませるしか・・・

そう考えてる間に益子焼マンの大きい手はもうすぐそこ！
はい南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏。

「やっぱり3回焼くのが一番丈夫！・・・」

「・・・・・・・・ひっ」

続く

第2話 栃木って東北だよな？（後書き）

まだ続くかな！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9041s/>

KILL YOU!!!!?

2011年10月9日01時35分発行